

職員対象自主勉強会をどう始め、運営するか

大竹 秀和(学校法人立教学院 企画部広報課課長)

松村 多嘉士(日本薬科大学 教務課課長)

嶺本 朋希(摂南大学 教務課係長)

山田 尚彦(新潟大学 総務部専門幹(事務職員高度化、研究開発マネジメント人材制度担当))

山中 耕(学校法人京都文教学園 財務部経理課課長補佐)

汰木 里奈(関西福祉科学大学・関西女子短期大学 運営企画室課員)

講師略歴

【大竹秀和】2003年学校法人立教学院に入職後、学生支援・教務・国際化推進・学部事務等の業務を担い、2026年6月より現職(初法人、初管理職、初広報)。入職2年目に自学の学内自主勉強会に参加以降、学内外の大学職員対象自主勉強会の企画運営に関わり、現在は運営する複数の会を通じ、大学職員の学びと気づきのネットワークを広げている。勉強会活動の関連書籍として「21世紀の大学:職員の希望とリテラシー」(共編著)。修士(大学アドミニストレーション)。

【松村多嘉士】大学・専門学校職員として教務、入試広報・社会人教育等に従事し、現在は日本薬科大学教務課長として大学院・教職課程・カリキュラム関連および申請業務を担当。2024年秋に筑波大学履修証明プログラム「大学マネジメント人材養成」を修了し、「当たり前のことをやる」をテーマに実践を報告。学内外の有志による職員自主勉強会を立ち上げ、これまでに2回開催するなど、学び合う風土づくりと教職協働の推進に継続して取り組んでいる。

【嶺本朋希】2007年学校法人常翔学園に入職。その後、学生・入試・学部事務室・教務といった現場から、法人事務局での経営支援まで幅広く経験。特に法人事務局時代、トップマネージャーの背中を見て、私学経営を自分事に考えるきっかけに。以降、学内勉強会の立ち上げや大学行政管理学会の活動を通じ、組織の枠を超えた学びを実践中。ラグビーで培った気力・体力を礎に、休日はマラソンや愛車のキャンピングカーで「旅」と称した大学視察に繰り出す。

【山田尚彦】1986年長岡技術科学大学に採用後、1990年に新潟大学へ転任し、広報室長、総務課長、自然科学系事務部長を経て2025年4月から現職。現在は、J-PEAKS採択事業で事務職員高度化・人材育成パッケージを策定・展開している。長年、事務職員の育成業務に携わる傍ら、2018年に大学職員有志による勉強会「アツい大学人の会」を立ち上げ、全国の若手・中堅職員に対して学びの場を提供している。

【山中耕】2001年京都文教大学に入職。入試広報から教務・資格、就職、教学企画などと幅広く大学の業務を経験し現在は法人の財務部に所属。これまでも学外の勉強会や情報交換会、資格プログラム等に多く参加してきたが、大学行政管理学会での活動をきっかけに場を創る側としても活動するように。自身の専門性には自信がないが、ゼネラリストとしての幅の広さとフットワークの軽さを武器に、大学職員として更なる成長を目指していきたい。

【汰木里奈】2020年に学校法人玉手山学園(関西福祉科学大学・関西女子短期大学)入職、運営企画室にて7年目。大学の将来構想の検討をはじめ、認証評価、自己点検・評価、SD研修などの業務に従事。入職当初より学外での学びに関心を持ち、新卒1年目で大学行政管理学会へ入会。入会後も各種研究会や勉強会に参加し、得た知見を実務へ還元中。体系的な知識の修得を目的として、2026年3月に筑波大学の履修証明プログラム「大学マネジメント人材養成」を修了。

プログラム概要

大学職員的能力開発、キャリア自律を考える上で、学内外で開催される自主勉強会は非常に重要である。これらの会は、知識・スキルを身につける自己研鑽の機会というだけでなく、職員間のネットワーキングの機会としても長年活用されてきた。

自主勉強会は、参加者としてはもちろん、企画・運営者として関わるのが貴重な実践の機会となるが、どのように活動を始めたか、参加者の集め方、運営の仕方、継続するコツ等については共有される機会が少なく、企画・運営者としての活動に踏み出す職員は多くないのが現状である。

本企画は、学内外の自主勉強会活動の企画・運営に携わった経験のある職員が講師となり、ノウハウを発表や冊子資料で共有するとともに、どのような活動が続けやすいか、第一歩を踏み出しやすいか等について参加者が考える機会とし、自主勉強会をはじめとした業務外活動の企画・運営に携わる人を増やすことを目指す。

準備物・事前課題

1. 学内外の大学職員対象の勉強会等に参加経験のある方
これまでどのような会に参加したり関わったりしたことがあるか、企画運営にも携わった場合はその際の経験等について事前にまとめておく。
2. 学内外の大学職員対象の勉強会等に参加したことがない方
興味・関心のある会等について事前にまとめておく。実在する会に限らず、こんなことが学べる、こんな成果が得られる会、という内容でも可

主な受講対象者

学内外の自主勉強会を企画・運営してみることに興味のある大学事務職員等（大学等の設置形態は問わない）

到達目標

1. 大学職員対象の学内外の勉強会にどのようなものがあるかを知ることができる。
2. 勉強会に参加するメリットおよびデメリットを理解することができる。
3. 勉強会活動をスタートするうえで重要なポイントを理解することができる。
4. 勉強会活動を継続させるうえで重要なポイントを理解することができる。